

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：清武 健二 所属：朝倉市立金川小学校 校長

課題名：「地域よさと生活経験から課題を見だし、自ら学び自ら考える力を育てる授業の創造」
～地域環境のよさを基盤にした体験活動を中心に～（研究領域：理科・総合的な学習の時間・創意活動）～

1 課題の主旨

本研究は、日本で唯一の「水前寺のり」自生地であるという本校校区の特色と本校伝統の桜草栽培の体験を生かして、環境教育の実践を通して、地球規模で変化する時代に対応し、よりよい未来を作り出す児童の育成をめざす取り組みである。特に本校区の黄金川での体験学習・調べ活動や川遊びを通して、地球環境を守り、主体的に環境保全の意欲を育むことをねらいとしている。

2 活動状況

(1) 活動内容の概略

- ① 4年「総合的な学習の時間」における黄金川での体験学習
 - ・ 「川のきれいさ」「川に住む小動物や植物について」「季節の変化」「地域と黄金川とのかかわり」「水前寺のりが自生する理由」
- ② 5年「理科」めだかの育成を通しての生命誕生の学習
 - ・ 「生命誕生のしくみと神秘」「成長のしくみと生き物の生命と環境とのかかわり」
- ③ 全学年「学校創意・「総合的な学習の時間」における桜草栽培と桜草祭の開催
 - ・ 「地域と学校との連帯感を図る桜草祭開催」
 - ・ 「桜草栽培を通しての植物の成長と環境・季節とのかかわり」

(2) 活動内容の実際から

- ① 4年「総合的な学習の時間」平成17年度・18年度の実践から
- 4月 黄金川に入って、川の水のきれいさ、水前寺のりの自生の様子、川のまわりの環境について、実際に観察したり体験したことをまとめた。
- 9月 ゲストティーチャー(地域の方)を招いて、川の水質を調べたり、川の生き物(絶滅危惧種の「カワモズク」を含む)について教えていただいたりした後、実際に「水前寺のり」を収穫を体験した。
- 10月 「水前寺のり」の加工場見学、製品化についての学習
- 11月 「水前寺のり」の歴史についての学習
- 12月 「水前寺のり」を使ってサラダを作り、会食した。さらにインターネット等で「水前寺のり」について調べたことを含め、これまでの学習成果をグループ別に発表した。

これらの学習を通して、金川小校区の自然環境のよさとそれを維持することの大切さを学ぶことができた。また、これらを守ってきた人々の努力を理解し、これからは自分たちが守っていこうという、ふるさとを愛する気持ちを確かなものにすることができた。

② 5年「理科」平成18年度の実践から

本校では数年前から金川小校区の川から採取した黒メダカと平塚川添遺跡公園の堀から採取したヒメダカの2種類のメダカを飼育している。

導入段階 メダカの受精卵の成長の様子について、児童に絵をかかせて予想させた。

追求する段階　メダカの成長に必要な条件について調べ学習させた。

深める段階　人とメダカの成長について共通点と相違点を考えさせた。

これらの活動を通して、人とメダカの共通点である動物であることと環境との関わり、メダカの育つ環境としての地域のよさを理解させることができた。また、生命の神秘や尊厳さに触れ、生命を尊重する態度やお互いを思いやる心を育むことができた。

③ 全学年「学校創意・「総合的な学習の時間」における桜草栽培と桜草祭の開催から本校では長年地域に根付いた伝統行事として、児童が600鉢もの桜草を育て、地域の方々を招いて発表会をし、そのときに桜草をプレゼントするという行事を毎年行っている。

a なかよし学級での活動の取り組み

土作りから種まきまで、なかよし学級（1・6年 3・5年 2・4年）で取り組み、上級生が下級生のお世話をしながら活動することにより、上級生と下級生のふれあいが深まると共に上級生が下級生を教え導くという学校の文化が醸成された。

b 児童会の取り組み

児童会の運営委員会では、2月の桜草祭りの計画から準備まで自主的に活動し、祭り全体の進行などを執り行った。さらに、環境委員会では、5月の種まきから2月の祭りまで各学級に桜草の栽培がうまくいくようにポスターや呼びかけの活動を積極的にした。

c 桜草祭りの取り組み

毎年、桜草が満開を迎える2月の第3土曜日に地域の方や保護者を招待して桜草祭りを行っている。計画運営は児童会の運営委員会が受け持ち、司会や進行など自主的に行い、各クラスからは、自分たちの1年間の成長を学習発表という形で発表した。桜草の成長と自分たちの成長を重ね合わせた劇や大正琴の演奏（地域のGTの指導による）、地域の環境を調べてまとめたパネルディスカッション、群読など各クラスで工夫したものが次々と発表され、最後は地域の方が指揮をする全校合唱だった。そして、地域と一体となった学習発表会を行った。

そして、児童がお世話になった公民館長、川的环境をわかりやすく教えてくれたGTの方などに児童が1年間大切に育ててきた桜草を感謝の気持ちを込めてプレゼントした。

これらの活動を通して、児童は命あるものの成長と地域や自分とのかかわり、友達や上級生・下級生との協力の大切さを学び、地域の中の一員としての自覚を持つことができた。

(3) 研究のまとめ

① 本校区の自然環境の特性を生かした環境教育を基盤に、理科教育・総合的な学習の時間の関わりを教育課程に位置づけ、「水前寺のり」が自生する黄金川の秘密をさぐる活動により、児童は、「川のきれいさ」や「気候の変化」、「植物や小動物の成育状況」などの主体的な学習を進め、地域環境のよさを感得することができた。

② 学校で飼育中のメダカの観察活動を中心に、生命の神秘に触れ、命の大切さを学ぶことができた。

③ 全校児童で取り組んだ桜草栽培を通して、自然環境への関心を高め、自然を大切に、地域と関わりあって生きていこうという気持ちを育てることができた。

そこで、次年度は、これらの成果をふまえ次の点を課題として研究を進めたい。

- 児童が身近にとらえている環境問題に関する教材化をさらに工夫する。
- 環境問題に関する児童の課題は、個人差があるので、個に応じた課題設定の在り方をさらに工夫していく。
- 児童の主体的な学びを一層確かなものにし、科学的な見方・考え方を育てるために、繰り返し検証していく観察・実験の仕方を指導方法の面から工夫していく。